

名古屋市立大学の「今」を伝える広報誌



2024 NCU拠点校シンポジウムにて、拠点校から招へいた講演者の皆さん(→P2)

特集

**特集① リハビリテーション病院が
医学部附属病院として開院します**

**特集② 2024 NCU拠点校シンポジウムを
開催しました**

01 特集①

02 特集②

03 NCU TRY!!

04 TOPICS

07 学生の活躍

09 国際交流/ダイバーシティ推進奨励賞表彰式

10 受賞関連

11 交流会だより/教員著書・発行物紹介/寄附顕彰

DONATION

あなたの力が支えます

ご寄附のお願い

名古屋市立大学では、高いレベルの教育、研究、医療などの活動を展開し、市民に開かれた大学づくりを実践していくために、寄附金を募集しております。

問合せ：総務部 総務課

tel.052-853-8005

特集
1

リハビリテーション病院が 医学部附属病院として開院します

2025年4月に、名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院が本学医学部の附属病院となり、「リハビリテーション病院」に生まれ変わります。これにより、6つの病院を合わせて国公立大学としては最大級の2,223床からなる附属病院群が誕生します。

病院の概要

1989年に名古屋市が障害のある方に対し相談から医療、訓練を経て社会復帰に至るまでの総合的なリハビリテーションを提供することを目的として名古屋市総合リハビリテーションセンターが開設されました。当院はその附属病院としてリハビリテーションを中心とした医療を提供してきました。2025年4月より名古屋市立大学医学部附属リハビリテーション病院として運営を開始します。

新たな診療体制においては、前身の附属病院の医療を継続しながら、大学病院としての知見を活かした高度なリハビリテーション医療を中心に提供してまいります。また、大学病院化を契機として、先駆的な臨床研究を推進し、倫理観・使命感の高い医療人の育成に努めるとともに、これまで以上に地域の医療機関や介護事業者の皆さまとの連携を深め、安心・安全な医療を行ってまいります。



リハビリテーション病院外観イメージ



MELTz®手指運動リハビリテーションシステム

手指機能に特化した先進機器で、特に指先の繊細な動作の回復をサポートします。



Armeo® Spring pro with ManovoSpring

国内初となる上肢リハビリテーションロボットを採用。関節の動きをサポートしながら、繰り返しの運動を通じて上肢機能の回復を目指します。

ロゴマーク

名古屋市立大学大学院芸術工学研究科森侑子教授がデザインしました。

リハビリテーション(rehabilitation)の略語「rehab」をモチーフに、皆が支えあうイメージをデザイン化しました。色は、地名の密柑山からの連想と、元気をイメージさせる鮮やかなオレンジ色としました。



病院長あいさつ

名古屋市立大学医学部附属リハビリテーション病院は、2025年4月1日、名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院より名古屋市立大学医学部の附属病院として新しく生まれ変わります。

先進的なリハビリテーションによる機能回復にとどまらず、福祉とも連携し、患者さんの心に寄り添い、お一人おひとりが“自分らしく生きる”ことをサポートいたします。

また、リハビリテーションに関する臨床研究を推進し、得られた知見を市民公開講座などで広く発信し、市民の健康増進に役立ちたいと考えています。

ホスピタリティあふれる病院として地域の皆さまに信頼していただけるよう、スタッフ一丸となり日々精進してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



リハビリテーション病院
病院長
山下 純世

特集
2

2024 NCU拠点校シンポジウムを 開催しました



2024年12月12日(木)～13日(金)に名古屋市立大学病院3階・大ホールで、2024 NCU拠点校シンポジウムを開催いたしました。

欧州・アジアの8か国の海外拠点校から23名の研究者を招へいし、「未来につながる研究～よりよい社会を目指して～ Think about SDGs -Bridging to the Future: Research Aiming for a Better Society」というテーマのもと、本学の全研究科・学部および拠点校の全招へい者が登壇し、広範な学問領域にわたる最先端の研究結果が発表されました。本学の学生による研究テーマに関連したポスターの展示・発表も好評で、参加者は2日で計397人となりました。



2日目午前・薬学セッションの様子

拠点校シンポジウムは過去にも2度実施していますが、対面での開催が実現したのは2019年の第1回以来5年ぶり。また過去開催時と比べて拠点校数が倍増したこともあり、初の試みとなるキャンパスツアーの時間を初日午後後に設け、各招へい者には関連する本学研究科・学部の施設などを見学していただきました。

各研究者間でシンポジウムおよび初日夜のレセプションパーティーを通じて親睦を深めていただいたことが、開催目的の一つである拠点校との学術的な連関や共同研究の継続および拡大の実現につながることを強く願っております。



ポスターの内容を拠点校の研究者に説明する本学学生

■拠点校とは

海外拠点設置合意校のことで、留学生、研究者の受け入れ、派遣について、強い協力体制を整えている大学です。現在8校との拠点設置合意を結んでいます。

拠点校一覧

大学	国	合意年月
ハジェテペ大学	トルコ	2015年11月
ハルリム大学	韓国	2016年7月
サントーマス大学	フィリピン	2017年2月
プリンスオブソクラー大学	タイ	2019年2月
ランス・シャンパーニュ・アルデンヌ大学	フランス	2023年2月
ルートヴィクスハーフェン経済大学	ドイツ	2023年3月
プラウイジャヤ大学	インドネシア	2023年5月
トリノ工科大学	イタリア	2024年9月



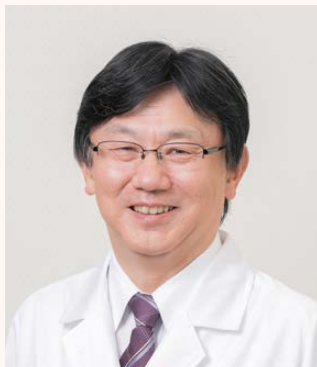
初日夜・レセプションパーティーの集合写真

国際交流センター長あいさつ

2024NCU拠点校シンポジウムは、8大学から計23名の研究者を招へいし、盛会にて終了することができました。今回は、観光庁の助成を受け、過去2回のアジア拠点校シンポジウムより大規模に実施することが可能となりました。一人でも多く若手の教員に活躍してもらえよう、また専門分野が近い研究者同士が対面で意見交換を行い、国際共同研究のきっかけや更なる深化のきっかけを作れるようプログラムを企画しました。質疑応答に力点を置いた司会進行、研究者間で意見交換の時間をとれるようにキャンパスツアー、ポスターセッションなどのインタラクティブな企画を盛り込みました。招へいした研究者と教員が、また本学の大学院生も、生き生きとした表情で交流している姿を随所に見ることができました。この場を借りて、皆さまのご協力に心より感謝申し上げます。このシンポジウムを契機に、本学の国際交流が活発になるよう国際交流センター一同尽力してまいります。



国際交流センター長
金子 典代



名古屋市立大学病院



新病院長 松川 則之

医療の進歩のために、名古屋市立大学病院は発展し続けます

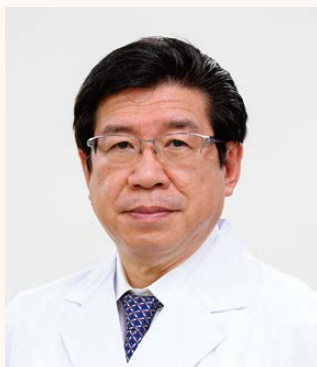
2025年4月より名古屋市立大学病院病院長を拝命致します松川則之と申します。

名古屋市立大学は総合大学として発展するとともに、医学部・薬学部・看護学部・データサイエンス学部など医育機関としての特徴を有しています。2025年4月には医学部と看護学部を医学部医学科と保健医療学科看護学専攻と改組し、保健医療学科リハビリテーション学専攻が加わり、総合医療系大学として将来の医療を担う医療人育成、および医療の発展のために臨床研究・基礎医学研究を行っていくことになりました。名古屋市立大学病院では、市民への質の高い安心安全な医療の提供を実施するとともに、将来のための医療人育成・臨床研究を積極的に実施して参ります。また2026年

に予定される救急災害医療センターの開設に向けて、“日本一の救急診療の提供”を合言葉に、これまで以上に質の高い救急診療を提供して参ります。一方、救急災害医療センターでは医師・看護師を始めとして全ての医療従事者が、総合的な臨床経験を可能とする施設・教育システム構築を目指します。医療人の初期段階で、あらゆる疾患の患者さんに対応できる診断・対応能力の習得は、将来に渡って医師・看護師のかけがえのない臨床能力の礎になります。センターの醸成は、既存の各診療科と相乗効果を示し、今後の名古屋市立大学病院の更なる発展に寄与するものと考えています。継続的な質の高い医療人育成により市民の皆さまの健康を護るとともに、先進医療の実践・新たな医療の開発を推進し“大学病院で働く喜び”を感じながら構成員が働きやすい施設づくりを実践していきたいと考えています。引き続きご支援・ご鞭撻いただきますように、よろしくお願いたします。



救急災害医療センター完成イメージ



名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター



新病院長 林 祐太郎

躍進し続ける東部医療センター

2025年4月より東部医療センターの病院長を拝命します林祐太郎です。当院は大学病院となって4年が経過しました。この間、市民の皆さまのいのちと健康を守る安全で高度な専門医療を提供する体制整備を進めてきました。救急車の応需は年間8,000台を越えています。救命救急センターとして、心臓血管や脳血管の重症疾患の患者や、小児救急患者を受け入れ、地域救急医療に貢献して参りました。当院の使命である感染症医療では、新型コロナウイルス感染症パンデミックのなかで、名古屋市民の生命を守る中心的役割を果たしました。とくに、新興感染症対策への重要施策として感染症学分野が設置され、感染症の専門医を養成していきます。また、合併症の多い高齢者の皆さまのがん治療の中心的医療機関となるべく、多くのがん専門医・薬剤師を教授として招聘し、がん診療体制の充実・強化を本格的に進めています。消化器外科、産婦人科、泌尿器科が、手術用ロボットである「da Vinci Xi」を用いて積極的にがん手術を行っています。その結果、昨年度ロボット1台当たりの手術件数は、全国でもトップクラスの実績となりました。さらに、愛知県のがん診療拠点病院の指定獲得をめざして、無菌室を整備したうえで白血病治療や、がん化学療法や放射線療法を含めた総合的ながん医療を進めていきます。これらの医療を担う専門医と初期臨床研修医・専攻医が、医療と研究をさらに充実、深化することができるよう、研究室や各診療科の医局の整備を行っています。東部医療センターは市民の皆さまから愛され慕われるような病院をめざして躍進し続けます。どうか引き続きのご指導を何卒よろしくお願申し上げます。

医療体制の充実・強化を本格的に進めています。消化器外科、産婦人科、泌尿器科が、手術用ロボットである「da Vinci Xi」を用いて積極的にがん手術を行っています。その結果、昨年度ロボット1台当たりの手術件数は、全国でもトップクラスの実績となりました。さらに、愛知県のがん診療拠点病院の指定獲得をめざして、無菌室を整備したうえで白血病治療や、がん化学療法や放射線療法を含めた総合的ながん医療を進めていきます。これらの医療を担う専門医と初期臨床研修医・専攻医が、医療と研究をさらに充実、深化することができるよう、研究室や各診療科の医局の整備を行っています。東部医療センターは市民の皆さまから愛され慕われるような病院をめざして躍進し続けます。どうか引き続きのご指導を何卒よろしくお願申し上げます。



ERにおける救急搬送受入



手術用ロボット「da Vinci Xi」と産婦人科医師

TOPICS

名古屋市立大学の最近のトピックス・主な出来事をご紹介します。

DATE 2024.11.9



経済学部 経済学部60周年記念イベントを開催しました

経済学部は、2024年に創立60周年を迎えました。それを記念し、2024年11月9日(土)に講演会を開催しました。
 経済学部長と共催である経済学部同窓会「瑞山会」の会長のあいさつの後、第1部では経済学部・白川町・CNCIの連携事業の紹介が行われました。新しい実践教育である共同講座について、白川町とCNCIより思いが語られ、共同講座を受講した学生による成果発表が行われました。
 第2部は「経済学部のこれまでとこれから」として、これまでの経済学部の歩みと、2025年度から経済経営学科の1学科として生まれ変わる経済学部の紹介がされました。
 この記念講演は、2027年度の新棟への移転に向けたキックオフイベントです。今後の展開にご期待ください。



学生による共同講座の成果発表



↑ 経済学部の歴史は
 本学70周年特設サイトより
 ご覧いただけます

DATE 2024.12.23



SDGsセンター

SDGsセンターシンポジウムを開催しました

2024年12月23日(月)に、SDGsセンターシンポジウム「医療現場の多文化共生最前線～言語や文化の見えない壁を超えて～」を桜山キャンパスにて開催しました。
 今年度で3回目の開催となる本シンポジウムでは「多文化共生」をテーマに、名古屋医療センターや愛知県多文化共生推進室の方に愛知県内の医療現場で先進的に取り組まれている外国人患者への対応事例に関する講演をしていただきました。その後、本学の留学生へのインタビューから大学内での多文化共生を考えるディスカッションが行われました。
 当日は本学の教職員、学生のほか、企業関係者、他大学教職員、自治体職員など、91名が参加しました。



ディスカッションの様子

DATE 2024.10.29-11.1



名市大版100人論文を各キャンパスとオンラインで開催しました

2024年10月29日(火)～11月1日(金)に4キャンパスとオンラインで分野・組織・世代の枠を超え、大学内のさまざまな研究者の研究内容について理解を深め、学内における共同研究や異分野融合研究の促進を図るための新しい形のポスター発表会を開催しました。
 100人論文は、分野を超えた本音の意見交換を行い、対話・研さんの機会とするための京都大学発のイベントです。
 場所の関係でポスター数を40枚に限定したにも関わらず、参加者は延べ200名以上、ポスターへのコメントも131件集まり、本学の各教員の研究に関して分野横断的な意見交換ができました。本イベントから分野横断的な共同研究、大型研究費獲得や国際的な研究拠点の形成などに発展することが期待されます。



桜山キャンパスの様子

DATE 2024.12.17/18



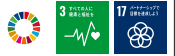
名古屋市立大学と瑞穂ヶ丘中学校による産学連携特別プログラムを実施しました

名古屋市教育委員会の取り組みの一環である名古屋市立瑞穂ヶ丘中学校におけるキャリア教育プログラムが実施されました。このプログラムは、中学生が社会課題を設定し、その解決策を模索する中で、自分らしい生き方を実現する力を養うことを目的としており、本学も実施に協力しました。社会課題を設定する前段階として、12月17日(火)、18日(水)に本学の8学部の教員が担当し、実社会の課題や解決策、最先端の学問・技術に関する講義が行われました。参加した中学生は、どの授業にも熱心に取り組み、多くの学生が「先生方の研究が社会とどのように結びついているのかを学ぶことができた」と感想を寄せました。3月には中学生による成果発表が行われ、本学教員が講評を行う予定です。



薬学部の授業風景

DATE 2024.10.26



東部医療センター

東部医療センターで院内不審者対応訓練を行いました

2024年10月26日(土)、東部医療センターでは、不審者による刃傷事件が発生し多数の負傷者が発生した場合を想定した、院内の不審者対応訓練を行いました。
 訓練は愛知県警察の指導の下、名古屋市消防局にもご協力いただきました。患者・家族役として、当院が救急救命士の学生実習を受け入れている東海学院大学の学生にも多数参加していただき、救急・外来棟1階と2階を使った大掛かりな訓練となりました。災害対策委員および病院幹部を中心に、不審者の発見から警察・消防への通報、患者・家族の安全確保と避難、救護活動など一連の対応を確認しました。

本番さながらの警察・消防の様子に圧倒されるとともに病院としての危機管理対応の課題も見えて参りました。災害拠点病院として、今後も他の関係機関との連携を強化して、院内・院外の災害に備えたいと考えています。



制圧の様子

世界レベルの研究拠点の形成に向けて「卓越研究グループ支援事業」を開始しました



先端的かつ国際性の高い世界トップレベルの研究拠点を形成するため「卓越研究グループ支援事業」を開始しました。この事業は、多様な研究者の共創と融合により、卓越的かつ独創的な優れたアイデアで学際的研究分野を開拓し、さらに国際的な連携で研究を推進していくグループの創生を目的としています。2024年度は、下記の2グループを採択。3年度にわたって研究費を支援し、インパクトの高い国際共著論文数の増加、科学技術の発展、社会課題の解決やイノベーションの創出に貢献していきます。



キックオフシンポジウムで講演する澤本教授



メディアセミナーで研究グループを紹介する森田教授

＜支援グループ＞

- ①「脳神経科学の将来を担う若手研究者の育成と共同研究支援による研究力強化促進プロジェクト」
[研究グループ代表者] 医学研究科 脳神経科学研究所 神経発達・再生医学分野 教授：澤本和延
- ②「光が切り拓く新たな研究開発拠点形成」
[研究グループ代表者] 医学研究科 加齢・環境皮膚科学分野 教授：森田明理

DATE 2024.11.3



東部医療センター 西部医療センター いいお産の日のイベントを開催しました

2024年11月3日(日)、いいお産の日のイベントを西部医療センターとオンラインのハイブリッドで開催し、妊婦さんやそのご家族等、80名以上が来場されました。本イベントは、妊娠中や育児中(1歳未満)の方を対象としており、お産について広く知っていただくための企画を実際に体験していただけます。今年度は本学の助産師と助産学生が集まってイベントを行い、助産師外来体験、乳幼児蘇生、もく浴練習、ベビーマッサージなどの体験型ブースのほか、助産師が妊婦さんやパパになりきったお産劇を上演するなど、和気あいあいとした雰囲気で行われ、助産師をより身近に感じてもらえる機会となりました。また、ドイツからの留学生も視察に訪れ、本学の取り組みを知ってもらうことができました。



本学の助産師・助産学生、ドイツからの留学生の集合写真

DATE 2024.11.16



愛知銀行・中京銀行(現・あいち銀行)との共催イベント

「集え、未来の経営者!ゲームで学ぶ社長の仕事」を開催しました



イベントの様子

2024年11月16日(土)に、愛知銀行・中京銀行(現・あいち銀行)との共催で「アントレプレナーシップ教育」をテーマにした学習イベントを開催しました。まずは座学で、経済学研究科の鶴岡宏成教授より「起業家ってどんなひと?」と題した講義を受けた後、双申株式会社・嶋崎万太郎代表取締役の進行のもと、体験型ゲーム冊子「ゲームで学ぼう!ねこ店長の経営学」をスタート!一人一人がラーメン屋の店長となり、仕入れや人件費などの計算をしながら利益を競い、社長の仕事へ挑戦しました。アンケートでは、「家でもやりたい」「将来店を運営することになったら活かしたい」などといった声が寄せられ、「社長の仕事」について学び興味を持ってもらう貴重な機会を提供することができました。

DATE 2024.12.14



大学院 医学研究科 大学院 理学研究科

名古屋市立大学×名古屋市科学館 サイエンスパートナーシップイベントを開催しました

本学と名古屋市科学館は、次世代を担う高校生・中学生を対象に、毎年、特別講演会を実施しています。2024年12月14日(土)に「名古屋から宇宙をのぞむ:宇宙科学の深淵とロマン」と題してサイエンスパートナーシップイベントを開催しました。今年で9回目を数え、本学からは医学研究科の岡田淳志准教授が宇宙での健康管理について、理学研究科の秦和弘准教授が巨大ブラックホールの撮影について、そして科学館の稲垣順也学芸員からはプラネタリウムの歴史についての講演がありました。その後、特別企画としてプラネタリウムを観覧しました。本イベントでは、科学の魅力を伝えるとともに、本学における最先端の研究や国内有数の規模を誇る名古屋市科学館の魅力を紹介しました。



秦准教授の講演の様子



岡田准教授の講演の様子

DATE 2025.1.29



名古屋市立大学病院

第2回 小児AYA Cancer Symposiumを開催しました

※AYA世代: Adolescent & Young Adult (15~39歳)

2025年1月29日(水)、小児AYAがんの多施設参加型研修会として、今回は「小児AYA世代のがん治療と妊孕性温存」をテーマに、がん医療支援部・小児科の亀井美智先生をはじめ事務局の協力によりハイブリット開催が実現しました。会場参加33名に加えオンライン同時配信36名と多くの方にご参加いただきありがとうございました。産科婦人科・伴野千尋先生、泌尿器科・岩月正一郎先生、小児科・武田理沙先生の講演に加え、特別講演として岐阜大学教授・成育医療センターの古井辰郎先生(座長:産科婦人科准教授・佐藤剛先生)にもご講演いただき、当院の実績や、卵巣凍結保存の現状、妊孕性温存の登録システムなどについて貴重な情報共有ができ、有意義な会となりました。今後も小児AYAがんの患者さまに、より良い医療の提供ができるよう皆様と協力しながら推進して参ります!



各演題とも活発な議論が行われました

DATE 2024.12.21



高等教育院

2024年度 寄附講座(近世名古屋学)・なごや学研究センター公開講座を開催しました

2024年12月21日(土)名古屋市教育センター(熱田区)にて、今年度2回目となるなごや学研究センター主催の公開講座が開催されました。本講座は、千田嘉博教授の基調講演『桶狭間の戦いと大高城』を中心に3部構成で行われ、当日は約660名の方々が参加されました。

第1部では、名古屋市教育委員会文化財保護課の瀬藤茂課長補佐より、史跡大高城跡の調査成果が発表されました。第2部は千田教授が、「桶狭間の戦いと大高城」と題して、善照寺公園内には砦の跡が埋まっており、信長が運命を切り開いた砦を復元し、体感できるようにすれば魅力ある街づくりにつながると力説されました。第3部では、坪田知広名古屋市長と本学の人文社会学部の学生(大石貫太郎さん)、千田教授による特別対談が行われ、冒頭の大石さんの発表では、景観や文化財を活用して街の特徴を作り上げるためには、行政だけでなく地域住民の協力も不可欠であることが述べられました。参加者からは「若い世代の人々が研究をして、それをまちづくりに活かしてくれることに期待します」などの声が寄せられ、講演会は大盛況に終わりました。



第3部対談の様子

DATE 2025.1.15/22

経済学部 名古屋市上下水道局に

「名水」のマーケティング提案を行いました

今年度、経済学部専門科目「商品開発」では、名古屋市上下水道局と連携し、災害用備蓄飲料水「名水」のパッケージデザインならびにマーケティング提案の企画立案に取り組みました。その成果発表として、2025年1月15日(水)に学生による企画提案のプレゼンテーションを行い、続く1月22日(水)には名古屋市上下水道局職員からの講評ならびに学生とのディスカッションを行いました。

学生のプレゼンテーションでは、講義で学んだ商品開発のプロセスに沿いながら、新規性と実現可能性のバランスにも配慮した計8つの提案がなされました。上下水道局職員からの講評では、着眼点への評価や、よりよい提案にするためのコメントがあり、学生との質疑応答が熱心に交わされました。双方にとって、貴重な学びの機会となりました。



ディスカッションの様子

DATE 2025.2.18-24

芸術工学部 大学院 芸術工学研究科

卒展2025を開催しました

2025年2月18日(火)～2月24日(月)の期間、北千種キャンパスと市民ギャラリー矢田において、芸術工学部4年生と大学院生による卒業修了制作展を開催しました。映像、メディアアート、サウンド、UI/UX、プロダクト、グラフィック、3DCG、建築、都市計画、ランドスケープなどの様々なテーマを通じて、現代社会と都市環境へのデザイン提案を目指した作品を展示しました。多くの来場者から好評をいただき、学生生活における集大成となる制作展となりました。



北千種キャンパスの展示作品



市民ギャラリー矢田の展示作品

DATE 2025.3.25-4.20

芸術工学部 大学院 芸術工学研究科

愛知万博20周年記念事業にて 学生の作品が展示されます

愛知万博20周年記念事業の一環として、県内12大学の学生が創造力やアイデアを生かし、愛・地球博記念公園の各所に季節を感じられるモジュールを展示する「彩の回廊(いろどりのかいろろ)」が2025年3月25日(火)より開催されます。

本学からも芸術工学研究科・芸術工学部の学生25名が製作した作品「揺れる交差点」を、3月25日(火)から4月20日(日)の期間にて展示する予定です。展示場所は西口広場の噴水の上で、来訪者も参加できる作品です。

学生たちは県内他大学の学生との会議を重ね、模型制作や最終デザインの発表を行うなど、1年間にわたり精力的に取り組んできました。期間中はぜひお立ち寄りいただき、学生たちの素晴らしい作品をご覧ください。



展示イメージ

DATE 2024.11.14

東部医療センター 東部医療センターで

世界糖尿病デー ～一緒に考えよう これからの糖尿病～を開催しました

世界糖尿病デーの2024年11月14日(木)、医師や看護師・管理栄養士など糖尿病診療に関わるスタッフがクイズや体験などそれぞれ専門の知識を活かしたブースを設けて、糖尿病について患者さんやご家族に正しく理解していただくためのイベントを開催しました。昨年・一昨年に引き続きの開催で、患者さんなど約100名の方が参加されました。今年初の試みとして1型糖尿病患者さんの交流会を行いました。1型糖尿病を発症してから、不安に思っていたことなど、他の参加者の方の経験談を聞いて、感心したり、同じような悩みを持っていることにホッとしたりと、初対面とは思えないほど盛り上がり、予定していた1時間があっという間に過ぎてしまいました。今後もこのような会を定期的で開催して、患者さんにとってよりよい治療環境を作っていくお手伝いができればと思っています。



管理栄養士と一緒に必要な栄養量を確認の様子



経済学部

TSUYOMI株式会社と商品開発コラボをしました ～大学生やZ世代が求めるオーラルケア製品を共同で開発～

経済学部鶴岡宏成ゼミのLenCon(レンコン)が、TSUYOMIの主力製品であるお口の健康をサポートする歯みがきタブレット「CAMUGAKI(カムガキ)」の新商品開発に取り組みました。情報発信の中心とされているZ世代(特に女性)における消費行動を考え、女子大学生に製品の使用とインタビュー調査を実施し、さらに周辺調査も行いました。インタビューや調査内容をまとめた分析結果から、若い女性消費者にターゲットを絞り、TSUYOMIとLenConが考える新しいオーラルケア製品は「外出時にコスメ感覚で使える歯みがきタブレット(お口の中まで化粧直し)」と商品コンセプトをリニューアル。Z世代のアクティブなライフスタイルに合わせた新たな価値を提案しました。



LenConメンバー
経済学部3年生 金高由美子(前列左)・安田杜汰(前列右)



完成した「風之道」を手に記念撮影
(左から、橋爪広報委員長、八十田さん、大手術院長)

「風之道」表紙↓

芸術工学部 リニューアル版東部医療センター広報誌 「風の道」のロゴマーク・表紙をデザインしました

芸術工学部産業イノベーションデザイン学科3年の八十田実優さんが、2025年1月発行の東部医療センター広報誌「風の道」のリニューアルに伴い、ロゴマークや表紙をデザインしました。ロゴマークには、重みのあるフォントを使用し、黒とえんじ色(東部医療センターロゴの色)を使用することで、大学病院としての重みのあるイメージと、東部医療センターならではの特徴が表現されています。また、病院の利用者の方が身近に感じ、広報誌を手に取ってもらいやすいように抜け感を意識し、風をモチーフとしたピンク色のラインを重ね、見学の際に感じた、院内の柔らかな雰囲気が表現されています。八十田さんがデザインしたロゴマーク・表紙は、今後も広報誌「風の道」に活用していく予定です。

八十田さんがデザインした
「風の道」のロゴマーク↓



経済学部



Tongali アイデアピッチコンテスト2024で 受賞しました

Tongaliアイデアピッチコンテスト2024は、大学生・大学院生が新しいビジネスアイデアを競うコンテストです。今年は過去最多の184組のエントリー。2024年11月9日(土)、1次予選、2次予選を勝ち抜いた15組のファイナリストが熱いプレゼンを繰り広げました。本学からは7組がエントリーし、3組が上位入賞を果たしました。

東海東京証券賞、博報堂プロダクツ賞、海外チャレンジ賞

チーム名:LipsLog

読唇術AIを用いた新たな発声ツールを通して、身体をロールプレイングする喜びを創造する

<受賞者>

経済学部3年生
森地陽向(他、他大学生3名)



Tongali賞5位、OKB賞、 なごのキャンパス賞

チーム名:セルフ2ネイル

非日常的な世界観で、セルフネイルを好きな人と好きな時に気軽にできるサービス

<受賞者>

経済学部1年生
櫻井望宇・加藤大聖・谷雄飛



三井不動産賞

チーム名:こみゆれば

都市菜園を利用した子どもたち起点の新たな地域コミュニティの形成

<受賞者>

経済学部3年生
森山瑞穂・菱田真雪・久野翔生・
森地陽向



人文社会学部



人文社会学部の学生が御劔学区子ども会のワークショップをサポート

人文社会学部現代社会学科3年三浦哲司ゼミでは現在、御劔学区子ども会が開催するワークショップにおいて、大学生ファシリテーターとして子どもたちの活動をサポートしています。今年度は8月の御劔学区夏祭り子ども会企画、および12月の御劔学区子ども会のクリスマス会のふたつの行事の開催にむけて、企画案づくりのためのワークショップを開き、本番に向けた事前準備に取り組んできました。最初は子どもたちも大学生も、お互いに緊張した様子でしたが、だいに距離も縮まってきました。こうして、お互いの協力のもと、ふたつの行事とも、無事に成功させることができました。

三浦ゼミでは来年度以降も引き続き、御劔学区子ども会のサポートをしていく予定です。



クリスマス終了後の記念撮影

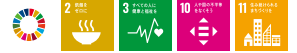


経済学部 「あったか!あつた魅力発見市2024」に参加しました



2024年11月17日(日)に、経済学部濱口泰代ゼミが「あったか!あつた魅力発見市2024」の宮の浜市(宮の渡し公園)に参加しました。2024年6月に参加・協力した「堀川まつり」について紹介するブースを担当し、疫病退散にまつわる堀川まつりの歴史等を説明しました。堀川まつりのために募金をしていただいた方にかざぐるまを配ったところ、子供たちに大好評でした!
同イベントでは、熱田区内で6つのマルシェが開催され、熱田区内を無料巡回バスで回遊するなど、新たな“熱田”の魅力に触れることができます。宮の浜市では、熱田区のおなじみの名店が出店され、多くの人たちでにぎわいました。来年もぜひ参加したいと思います。

令和6年度「瑞躍賞」受賞者が決まりました



課外活動や社会貢献活動において、顕著な功績のあった学生や団体を表彰する「瑞躍賞」に、令和6年度は5組(個人・団体)が選ばれ、2025年2月1日(土)開催の名古屋市立大学交流会懇親会において表彰式を行いました。これからも皆様のご活躍を期待しています。

<課外活動部門>

- 佐々木葵さん(人文社会学部3年)
カラテドリームフェスティバル2024国際大会
組手U25女子19歳以上25歳未満軽量級 優勝
- NCU Action HUB
Tongaliアイデアピッチコンテスト2024 5位入賞

- 岡村浩輝さん(医学部3年)
・第75回 西日本医科学学生総合体育大会
弓道部門個人戦 3位入賞
・第25回 全国ジュニア弓道錬成大会
射道奨励賞・優秀選手賞
加えて、東海地区の弓道成績向上ならびに弓道人育成に貢献
- 中川朝子さん(医学部6年)
第38回 織田作之助青春賞 最終選考進出

<社会貢献活動部門>

- 学習支援サークル「つばめ」
地域の子どもたちが安心して学べる環境を無償提供(教育サポート)するとともに、こども食堂の運営支援(地域貢献)活動を実施



学生の受賞

※学年は受賞時

大学院 医学研究科

第71回 中部日本生理学会 中部激励賞

<受賞者> 医学研究科 修士課程2年 西村 柚 さん
<題目> 注意欠如・多動症モデルラットにおけるアスパラギン酸摂取による攻撃性への影響



第8回 黒潮カンファレンス 優秀発表賞

<受賞者> 医学研究科 臨床薬剤学分野
修士課程1年 小林 ティモシイ 哲郎 さん
<題目> ラットの勃起機能に対するGC活性化剤 GSK2181236Aの効果の検討



日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2024 ベストプレゼンテーション賞

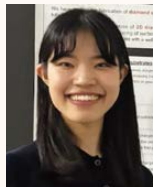
<受賞者> 医学研究科 臨床薬剤学分野 4年生 宮本 武門 さん
(薬学部 4年生)
<題目> パンコマイシン投与早期の24時間AUCとトラフ値の予測精度を高める解析方法



大学院 薬学研究科

第53回 結晶成長国内会議(JCCG-53)講演奨励賞

<受賞者> 薬学研究科 博士前期課程2年
竹本 満里菜 さん
<題目> コロイド粒子の交互積層による二次元ダイヤモンド結晶の構築



日本動物実験代替法学会 第37回大会 学生優秀演題賞

<受賞者> 薬学研究科 博士前期課程1年
中井 孝明 さん
<題目> ヒト生体腸管に近い凹凸構造・機能を持つ Caco-2細胞の新規培養方法の確立



芸術工学部

建築系愛知17大学合同講評会 最優秀賞

<受賞者> 芸術工学部 建築都市デザイン学科2年
小野 優人 さん
<題目> 拡張する学び(小学校建築設計作品)



大学院 理学研究科

2024 IEEE 13th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE) Excellent Student Poster Awards

<受賞者> 理学研究科 博士前期課程2年 孔 中天 さん
<題目> A Mobile Real-time Identification System of Isomorphic Objects Using YOLO with Attention for Visually Impaired People



国際交流



INTERNATIONAL ↔ EXCHANGE

留学生が小学校と高校を訪問しました！

留学生が名古屋市いくつかの小学校と高校を訪問し、母国の習慣・料理・言語・観光地・伝統的な衣装や祭り、そして学校での生活などについて紹介しました。クイズを交えた対話型の発表をするなど、小学校や高校の生徒と積極的に交流しました。留学生の発表の後は、生徒より多数の質問がありました。特に母国の食や言語についての質問が多く寄せられ、文化の違いに驚いていました。たくさんの方の前で発表するということもあり、最初はとても緊張していた留学生たちでしたが、次第に緊張もほぐれ楽しそうに生徒たちと交流していました。



発表の様子

留学フェアを開催しました

2025年2月5日(水)、学生が留学について考えるきっかけづくりを目的として開催している「留学フェア」をオンラインにて開催しました。金子国際交流センター長のあいさつから始まり、協定校から本学に来ている留学生による大学紹介、本学から協定校に留学に行った学生の留学体験談の発表、奨学金の説明などを行いました。30名を超える名市大学生が参加してくれました。大学紹介や体験談の発表では、フェア参加者が留学に対する具体的なイメージを持てたのではないかと思います。国際交流センターでは、今後も留学に関する情報を発信していきます。



発表の様子

せかいのこぼでおはなし会に留学生が参加しました

2024年12月14日(土) 鶴舞中央図書館主催、名古屋市立大学国際交流センター協力によるイベント「せかいのこぼでおはなし会」を開催しました。本学の留学生がそれぞれの母語等で絵本を日本の子どもたちに読み聞かせるというもので、2014年から毎年開催されております。今年は韓国語、英語、中国語で行われました。来場者は4歳前後のお子さんやその保護者ら、約40名でした。絵本の朗読以外にも、留学生が出身国の文化や、それぞれの言語での数字の教え方を紹介しました。小さなお子さんから大人まで参加者みんなで交流することができました。



絵本読み聞かせの様子



参加した学生

ダイバーシティ推進奨励表彰式 (2025年2月5日開催)

本学ではダイバーシティ推進宣言を行っており、多様性を尊重し様々な人材が活躍できる社会の実現を目指しています。その中で、ダイバーシティ推進に関連する優れた研究・活動等を行っている本学の教職員及び学生等に対して、今年も学長から表彰を行いました。

■研究/学生部門

・経済学研究科 経営学専攻
黒木 喜夫

■活動/学生部門

・映像によるまちづくり
芸術工学部情報環境デザイン学科
瀬尾 佳音 他13名

■研究/教職員部門

・経済学研究科 経営学専攻
坂和 秀晃、渡邊 直樹

■活動/教職員部門

・みどり市民病院 看護部
・医学研究科整形外科学講座
代表 村上 英樹

(敬称略)



詳細はこちらから↓



PRIZE 受賞

※受賞期間:2024年10月~2024年12月頃 ※研究科・学部ごと、受賞日順に掲載



■医学研究科



一般財団法人日本消化器病学会
日本消化器病学会女性研究者賞

<受賞者>医学研究科 共同研究教育センター
中央臨床検査部
准教授 井上 貴子

<題目>新規のB型肝炎ウイルス再活性化マーカー
「高感度HBコア関連抗原測定系」の開発と
実用化・その臨床的有用性の評価

American Association for the Study of Liver Diseases
Poster of Distinction for The Liver Meeting® 2024

<受賞者>

医学研究科 共同研究教育センター中央臨床検査部
准教授 井上 貴子

<題目>

Assessment of bacterial involvement in the stagnation of
secondary bile acid production and deacidification in the
gut environment after HCV elimination



第21回成体脳のニューロン新生懇話会
Young Investigators Award

<受賞者>医学研究科 神経発達・再生医学分野
特任助教 松本 真実

<題目>正常脳および傷害脳内を移動する
新生ニューロンの細胞接着制御

■東部医療センター



第67回 日本消化器内視鏡学会東海支部例会
「消化器内視鏡のリアルワールド」若手優秀演題賞

<受賞者>東部医療センター 消化器内科
横井 佑典(後期臨床研修医)

<題目> 輪状膵由来膵癌と鑑別を要した
十二指腸血管肉腫の1例



<受賞者>東部医療センター 消化器内科
田村 洋樹(後期臨床研修医)

<題目> 経十二指腸的EUS-PDが奏功した
急性閉塞性化膿性膵管炎の1例

■看護学研究科



第62回 日本医療・病院管理学会学術総会 優秀演題賞

<受賞者>看護学研究科 准教授 秋山 直美

<題目> 新型コロナウイルス流行前後の病院の非効率性について:
Stochastic Distance Function Approach

■薬学研究科



日本結晶成長学会 貢献賞

<受賞者>薬学研究科 コロイド高分子物性学
教授 山中 淳平

令和6年度 永年勤続表彰



永く、本学で勤め、支え続けていただいた皆さまへ、心より深く感謝いたします。今後も健康にご留意いただき、ますますのご活躍をお祈りいたします。

■30年勤続表彰



相原 徳孝
教授(東)

支えていただいた
皆様に、感謝
申し上げます。



大橋 一也
技師長(み)

30年の歩み、皆
様に感謝とさら
なる挑戦を。



笹野 寛
教授(診療担当)(医)

周りの仲間にお
まわって楽しく3
0年経ちました。



清水 真名美
看護師長(病)

ご支援いただ
いた皆様に感謝
いたします。



杉浦 真弓
教授(医)

支えていただ
いた30年に感謝
しています。



田島 みどり
看護師(西)

家族と同僚の支
えに心から感謝
いたします。



田中 きよ美
主任(技術)(西)

皆様の御支援に
深く感謝いたし
ます。



福永 友紀
主任(技術)(東)

皆様のお力添え
のおかげと、感
謝しております。



森田 明理
教授(医)

仲良く支えてい
ただいた皆様に
心から感謝。



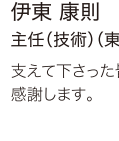
森田 康之
技師長(み)

支えていただ
いた皆様に感謝
致します。



横山 清子
教授(テ)

多くの皆様から
のご指導に感謝
いたします。



伊東 康則
主任(技術)(東)

支えて下さった皆
様のおかげです。
感謝します。

矢野 能美
主任(技術)(病)

皆様のご支援に心より感謝申し上げ
ます。

■20年勤続表彰

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 明智 龍男 教授(医) | 谷内 千香子 主任(技術)(光) |
| 朝光 かおり 講師(助教級)(医) | 寺沢 幸洋 主任(技術)(病) |
| 荒木 麻衣 主任(技術)(み) | 中川 秀彦 教授(薬) |
| 安藤 究 教授(人) | 中山 徳良 教授(経) |
| 市原 千花子 主任(技術)(み) | 永吉 純平 技師長(東) |
| 岩切 洋一 主任(技術)(病) | 難波 大夫 准教授(講師級)(医) |
| 江坂 高峰 主任(技術)(病) | 服部 光治 教授(薬) |
| 片岡 洋望 教授(医) | 深町 勝巳 講師(助教級)(医) |
| 可児 里美 係長(技術)(病) | 深見 理恵子 主任(技術)(病) |
| 菊地 夏野 准教授(人) | 藤原 桂子 主任(技術)(光) |
| 久保田 健市 教授(人) | 前田 清香 主任(技術)(病) |
| 栗原 康行 教授(芸) | 増田 奈保子 主任(技術)(病) |
| 澤野 孝一郎 准教授(経) | 松尾 洋一 教授(東) |
| 塩崎 舞 主任(技術)(み) | 松田 史子 主任(技術)(病) |
| 清水 万倭 主任(技術)(病) | 水上 裕子 主任(技術)(病) |
| 高橋 智 教授(医) | 山田 貴之 係長(技術)(病) |
| 高橋 広城 准教授(西) | 若林 加菜子 主任(技術)(病) |

(医):医学研究科 (薬):薬学研究科 (経):経済学研究科 (人):人間文化研究科 (芸):芸術工学研究科
(テ):データサイエンス学部 (病):名古屋市立大学病院 (東):東部医療センター
(西):西部医療センター (み):みどり市民病院 (光):みらい光生病院

交流会だより

令和6年度 名古屋市立大学交流会
総会・講演会・懇親会を開催しました

2025年2月1日(土)に交流会総会・講演会・懇親会を開催いたしました。
総会では会長の選出があり津田会長が再度選出されました。また、中央看護専門学校同窓会「しらゆり会」が交流会に加わることになりました。さらに令和5年度の会計報告が行われ、令和5年度の収入は22,687千円(前年度繰越金含む)、支出は3,691千円、次年度繰越額は18,996千円でした。
講演会では、棋士八段の杉本昌隆氏をお招きし「師匠が語る、藤井聡太という才能」と題してのご講演と、医学部3年の森本女流棋士との対談がありました。どちらも大盛況のうちに終了しました。
懇親会では顕著な功績のあった学生、教職員、同窓会員に対する表彰式が行われました。当日は多くの方にご参加いただき、学部や世代を超えて参加者が交流を深めました。



←名古屋市立大学
交流会HPにて会計報告と
開催報告をしております

「名市大ブックス」シリーズ最新刊
第19巻・20巻を出版!

社会貢献活動の一環として2020年から出版を続けている「名市大ブックス」シリーズ。その最新巻となる19巻・20巻の2冊を出版しました。それぞれテーマとなるキーワードは「健康診断」と「なごや学」。ぜひともご一読いただき、学びを深めてみてください。

19巻:かしこく生かす健康診断

20巻:名古屋のルーツを探るなごや学



名市大ブックスについての詳細はこちら↑

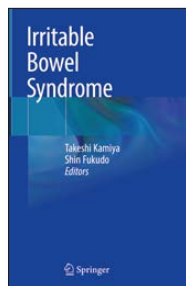


教員著書・発行物紹介

子ども政策とウェルビーイング:
行政・NPO・日本社会が支えるものは何か

著者: 人間文化研究科 准教授
松村 智史

出版:2025年1月 明石書店



Irritable Bowel Syndrome

著者: 医学研究科 教授(診療担当)

神谷 武 他

出版:2025年1月 Springer

寄附顕彰

大学振興基金

■個人

- 10万円以上 久野 温士 様、徳倉 正晴 様
- 5千円以上 松本 正輝 様
- 非公表 大島 忠之 様、小野内 仁志 様、
柴田 知之 様、杉浦 橋 様、
三宅 勝 様

■団体

- 10万円以上 一般社団法人名古屋市立大学
医学部同窓会 瑞友会 様
- 1万円以上 特定非営利活動法人国際倶楽部
理事長 松岡 亜継子 様

※五十音順。2024年10月1日から2024年12月31日までに寄附をいただき、公表に同意された方。
※インターネットからお申込みいただいた方につきましては、クレジットカード会社または決済代行会社から本学へ入金された日が上記期間に該当する方。

名市大生みらい応援基金

■個人

- 10万円以上 久野 温士 様
- 1万円以上 奥山 佳胤 様
- 非公表 浅井 清文 様、伊藤 恭彦 様、
小野内 仁志 様、加藤 尚一 様、
柴田 知之 様、杉山 由賀里 様、
田中 敬子 様、渡邊 弘章 様

感謝状贈呈式が行われました

2024年10月、本学の「名市大生みらい応援基金」に対して株式会社ナオツー様より多額のご寄附をいただきました。そのご厚意に対し、郡理事長から感謝状が贈呈されました。



贈呈式での記念撮影



【SDGsのアイコン(1~17のGOAL)】

SDGsとは「Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標」の略称で、17のGOALが設定されています。本学もSDGs達成に向けた活動を推進しているため、関連するGOALのアイコンを各記事に表示しています。

募集中! 広報誌「創新」のご意見・ご感想などをぜひ総務部 広報室までお寄せください!

▶▶▶ E-mail : ncu_public@sec.nagoya-cu.ac.jp